環境白書の刊行にあたって



私たちは今、大気や水の汚染、廃棄物対策に加え、地球温暖化や生物多様性の損失といった地球規模の環境問題に対して、積極的に取り組むことが求められています。

こうした環境問題は、一人一人の日々の暮らしや社会の様々な分野における活動と密接に関連した問題でもあり、その解決には、行政だけでなく県民や事業者が、日々の暮らしの在り方や事業活動を、環境に配慮した方向へ変えていくことが何よりも大切です。

県では、今年７月、本県が誇る健全で恵み豊かな環境の維持向上を図るとともに、国の第六次環境基本計画の策定や、令和６年能登半島地震及び奥能登豪雨の発生といった近年の環境を取り巻く状況変化に対応するため、本県環境施策の拠り所となる県環境総合計画に県再生可能エネルギー推進計画を統合し、一体的に改定しました。本計画に基づき、多岐にわたる環境問題に県民、事業者、行政などの各主体と協働し、本県の豊かな環境を未来に引き継ぐための取組を進めてまいります。

カーボンニュートラルの推進については、温室効果ガス削減に先進的に取り組む「脱炭素先行地域」として、本年２月、本県と七尾市ほか９者が共同提案者となる事業計画が国に採択されたところであり、能登半島地震を踏まえ、今後、能登空港、能登の道の駅、金沢港エリアに自立分散型電源を導入し、災害時の機能確保を図ることとしております。

トキの放鳥については、本年５月に、秋篠宮皇嗣同妃両殿下のご臨席を賜り、本州初となる放鳥を羽咋市において実施し、今月には、中能登町春木地区周辺において、２回目となる放鳥を仮設の放鳥ケージから自然に飛び立たせるソフトリリース方式により実施しました。今回の環境白書では、巻頭特集で「トキが舞い戻る　能登の空へ」として、トキ放鳥にかかる取組を紹介しています。

この白書は、環境の現状や課題、令和７年度における施策の実施状況などをまとめたものです。本書が、環境に対する県民の皆様の理解を深めていただく一助となることを願うとともに、各種の取組について積極的なご意見、ご提言、そして、ご参画を賜れば幸いに存じます。

令和８年10月

石川県知事　山野　之義